

関連学会印象記

第64回 IARS 総会印象記

堂 崎 信 一*

ASA (American Society of Anesthesiologists) と並んで伝統のある IARS (International Anesthesia Research Society) の第64回総会が、1990年3月9日から5日間ハワイ・ホノルルのシェラトン・ワイキキホテルで開催された。日本からの発表は、北海道大学から剣物教授と堂崎、札幌医科大学、信州大学および慈恵会医科大学から各1人位で他は留学先からの発表であった。全体で演題が450題で約2000人が参加した。

3月9日(金)、20:00成田発のノースウエスト機で同日8:30ホノルル着。気温は既に30°C近く、常夏の島にやってきたという実感が湧いてきた。シェラトン・ワイキキホテルに直行したが、折り悪く2~3日前からのホテル従業員ストライキにぶつかり、チェックインからチェックアウトまで滞在期間中ずっとホテルの通常サービスは受けられなかったが、その分、料金は20%割引された。学会のほうは、初日は登録だけで特に集まりはなく、早々とサンセット・クルーズを楽しんだ。

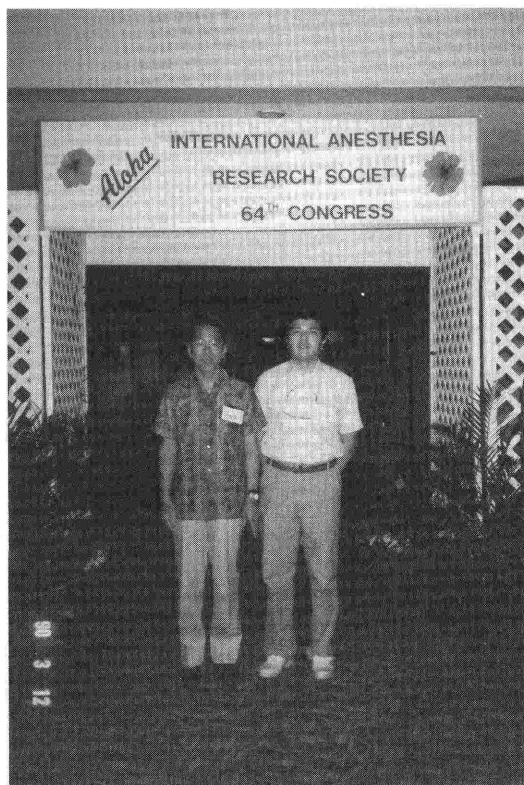
3月10日(土)、6:00から毎朝イグジション・プロダクト・セミナーと称して、製薬会社や医療機器メーカーがスポンサーになり、自社製品の宣伝を兼ねて、朝食付きの教育講演を行う。サマータイムで1時間早いうえに朝6時というのは、日本の感覚ではとても考えられないことだが、欧米では当然のことのようである。口演の発表は7:00~16:00まで1題15分で、9:00~10:00、12:00~13:15、14:30~15:00はポスター発表と昼食・休憩に割り当てられていた。口演は発表が10分で質疑応答が5分と、余裕のある時間配分と思われたが、なかには活発な議論で時間を超えるものも若干あった。しかし、座長の采配で各セ

ッションとも時間内にまとめられていた。

この日の口演は α_2 -agonist、経食道エコー(TEE)・パルスドプラー(PWD)心拍出量測定法、筋弛緩薬ピペクロニウム、悪性高熱に関する発表が主で、特に α_2 -agonist と TEE・PWD に関心が集中していた。

またこれら以外にも、ASA のリフレッシュ・コースと同様なレビュー・コースが7:00~15:50まで行われ、聴講時間により単位が取得できるシステムである。

3月11日(日)、昨日と同様の時間割でプログ



学会場入口にて (左は剣物教授)

*北海道大学医学部麻酔学講座

ラムが執り行われ、口演発表は新しい吸入麻酔薬である Desflurane, 小児麻酔領域における経皮麻酔・経粘膜麻酔 (フェンタニール・スフェンタニール・リドカイン等), 静脈麻酔薬のプロポフォールについてであった。

3月12日(月), 6:00から吸入麻酔薬のMACで有名な Edmond I. Eger, II 教授が Hewlett-Packard の後援で Anesthetic Gas Delivery: Risks, Measurements and Performance と題して教育講演を行ったが, 最新の供給ガス測定理論および測定機器についてのみ関心が高かったようだ。同じ時間帯に他の部屋で急性疼痛対策に関する教育講演も行われていたが, 大半は Eger 教授の話に集まったようだ。この日, 剣物教授が発表した H₂ 受容体拮抗薬・制吐薬のセッションでは, 欧米でもまだ H₂ 受容体拮抗薬の前投薬がルーチンになっていないことがわかった。私の発表した交感神経活動は, なぜか呼吸のカテゴリーに入れられたが, 他に神経生理の発表がなかったせいとも思われた。この他には, 術後疼痛に対する PCA (Patient Controlled Analgesia), 冠動脈バイパス・弁置換手術の麻酔や吸入麻酔薬の心筋細胞に及ぼす影響, さらには amurinone・enoximone といったキササンチン誘導

体の心筋収縮力増強への応用があり, どれも興味をひかれるものであった。

さらに午後2時から4時まで, 隣のロイヤル・ハワイアンホテルにおいて, 今回の目玉の一つと思われる α_2 -agonist (clonidine, dexmedetomidine) の麻酔領域への応用についてのパネル・ディスカッションが行われた。

3月13日(火)は学会最終日で, 口演発表とパネル・ディスカッションが正午まで行われた。この日は, ペイン・クリニック, 肝移植, 脳神経外科手術の麻酔などについての発表がなされた。

朝10時発のノースウェスト機で帰国したので最後まで参加はできなかったが, それなりに学会の雰囲気を楽しむことができた。しかし, 全体を通して感じたことは, 各演題のレベルは高いのにもかかわらず, 出席者が思ったよりも少なかったことで, やはりハワイという場所柄のせいなのか, それとも IARS 自体の持つ雰囲気のためなのか? いずれにせよハワイでの学会を, 大いに満喫することができたのは確かである。

次回の第65回 IARS 総会は, テキサス州サンアントニオで開催される予定である。演題受付締切りが8月3日と早いのが難点であるが, 日本からの多くの優れた発表が出ることを祈念したい。

* * * * *

* * * * *

* * * * *